

薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会
令和2年11月25日

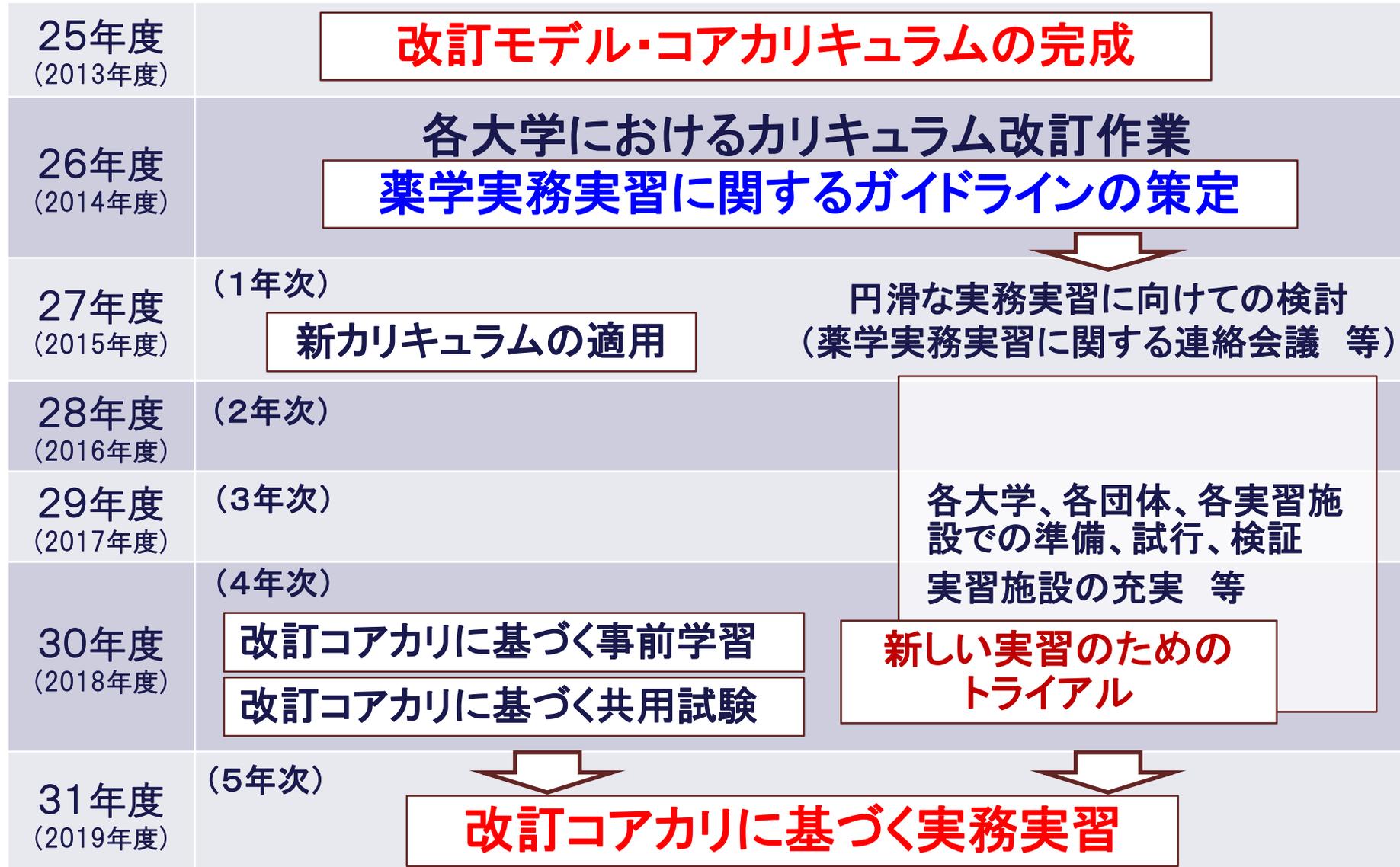
資料3

薬学実務実習の現状と 今後の展望

薬学実務実習に関する連絡会議 副座長
病院・薬局実務実習東海地区調整機構 委員長
名古屋市立大学大学院薬学研究科

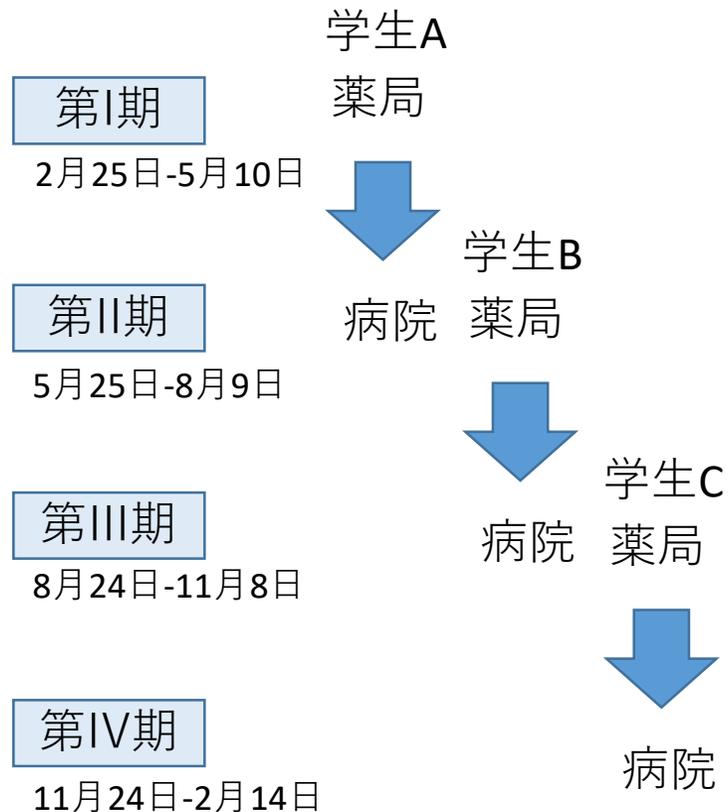
鈴木 匡

改訂モデル・コアカリキュラムに対応した 薬学実務実習の経緯



現在行われている薬学実務実習

- 22週間
- 薬局11週間、病院11週間
- 薬局、病院の順に連続実施
- 4期制



薬局実習の内容

処方監査・疑義照会
調剤
服薬指導
薬物治療の評価
セルフメディケーション支援
在宅療法支援
学校薬剤師などの地域保健・衛生活動

病院実習の内容

処方監査・疑義照会
注射剤調剤・無菌調製
病棟業務の実践
(治療方針の理解、処方設計、他職種と情報共有
服薬指導、薬物治療の評価)
チーム医療への参画
(回診・カンファレンス、医療チーム参加等)
医薬品情報(DI)業務などの他職種支援

参加・体験型の臨床実習の充実

- 実務実習では、実践的な臨床対応能力を身につける

参加・体験型学習を行う。

集合研修や講義で教えられることは大学で、医療現場でしか学べない内容を実習で体験しながら身につける。

- 実習生が多くの患者等に接して幅広い薬剤師業務を繰り返し体験する実習。 <単に作業を教えるのではなく、その業務の意義を理解するよう教える。>

病院・薬局が連携した一貫性のある実習

- 大学が主導的役割を果たし、病院・薬局間で重複する目標の指導を分担し、一貫性のある学習効果の高い実習を行う。

薬学実務実習での参加・体験型臨床実習の意義

「**任せる**」実習 「**自分の患者**」という体験

—患者中心の医療を**実感**する—

その患者の**生命や生活に直接関わる緊張感と責任感**は
臨床現場でしか体験できない！



医薬品という物質を、実際の個々の患者のために調製し、
投薬し、その療法に責任を持つことを体験することで、
基礎から薬学を学ぶ意義・医療人の心構えを醸成する
大切さを理解する。 **モノからヒトへ**

**より多くの患者を、
より多くの症例を体験するために**

代表的な疾患

薬学臨床の学習で、なるべく継続的に（繰り返し）
関わるべき疾患を 提示。

**がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害
精神疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症**



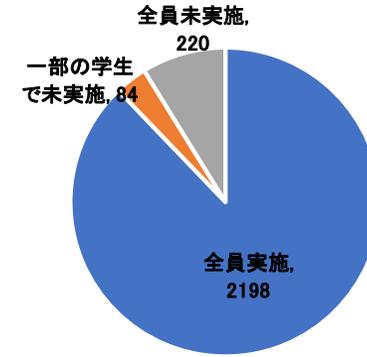
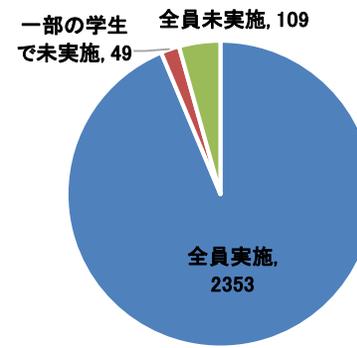
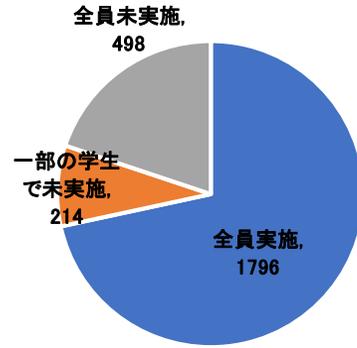
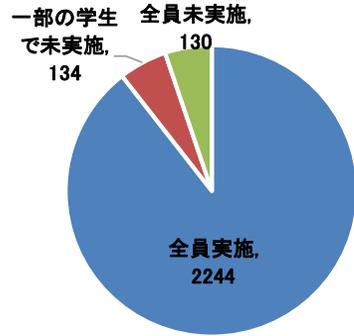
**これらの疾患の実際の処方箋・治療薬、
そして患者を「担当」し、薬物治療に関わることで、
臨床の知識を充実させ、
患者中心の医療を考えさせることが目的。**

参加・体験型の実習を実施することはできましたか？

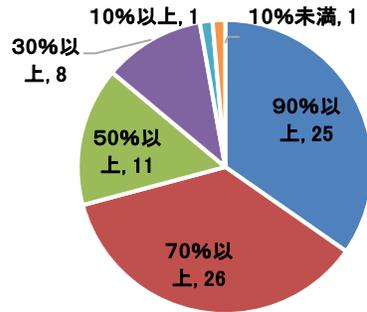
(薬局における実習の振り返り 2019年度)

薬局(2514施設)

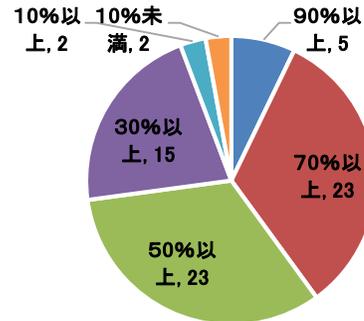
※薬局側から見た自己評価



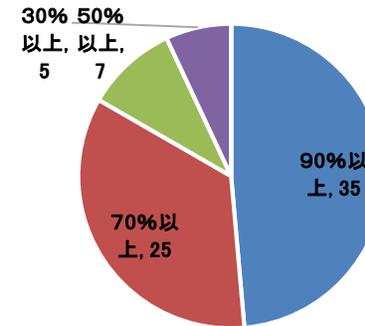
代表的な8疾患の患者を担当



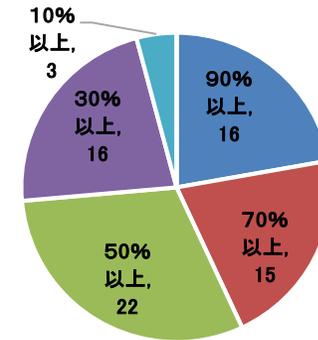
早期からの服薬指導



在宅療養支援



セルフメディケーション



大学(75学部)

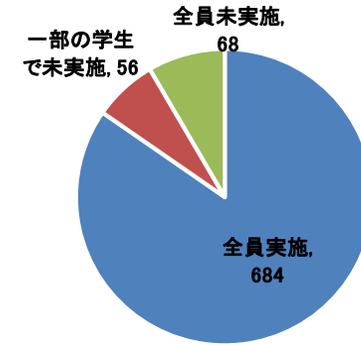
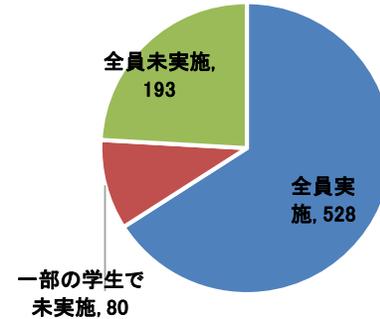
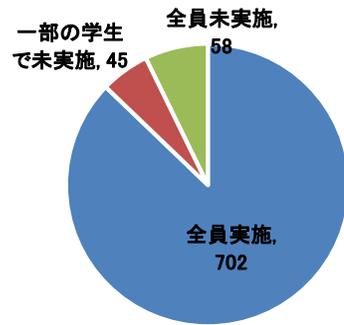
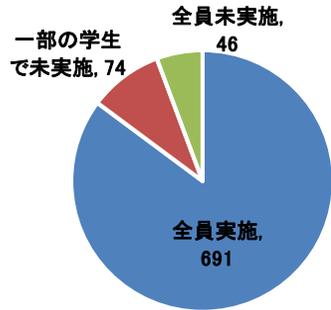
※大学側から見た自己評価

参加・体験型の実習を実施することはできましたか？

(病院における実習の振り返り 2019年度)

病院(820施設)

※病院側から見た自己評価

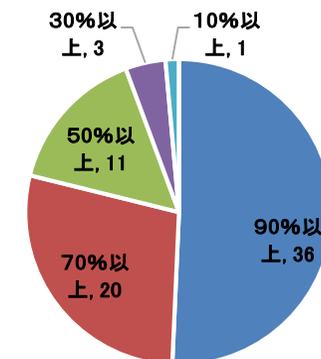
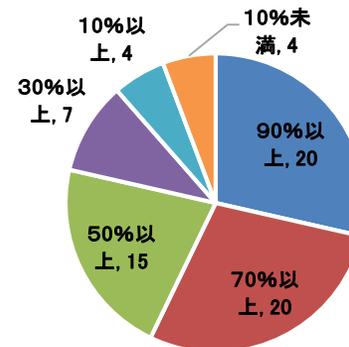
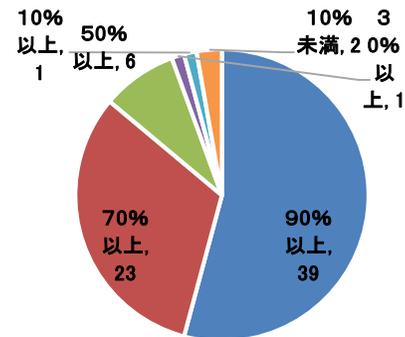
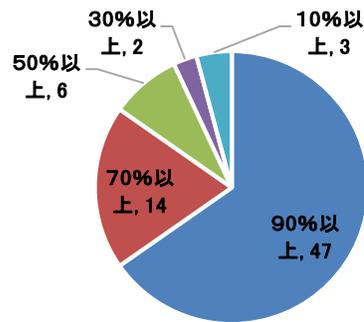


代表的な8疾患の患者を担当

5名以上の患者担当

病棟回診

カンファレンス



大学(75学部)

※大学側から見た自己評価

大学から実習施設への円滑な連携 ＜病院・薬局で参加・体験型実習を行うために＞

大学の授業では、臨床現場に必要な基本的な知識等をできる限り修得させる。



薬局・病院の実習では、それらの知識等を 実際の症例や事例で活用し、**臨床現場の課題に対応できる実践的な臨床能力修得を目指す。**

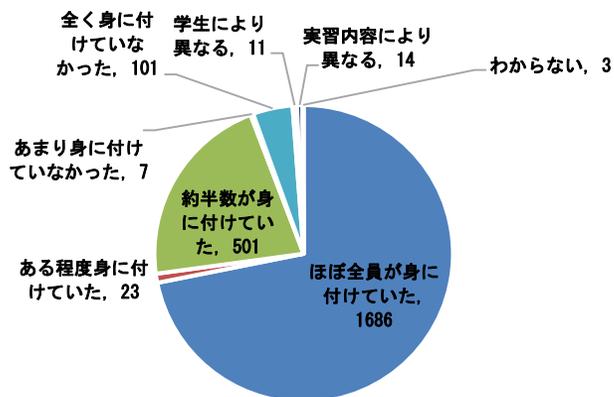
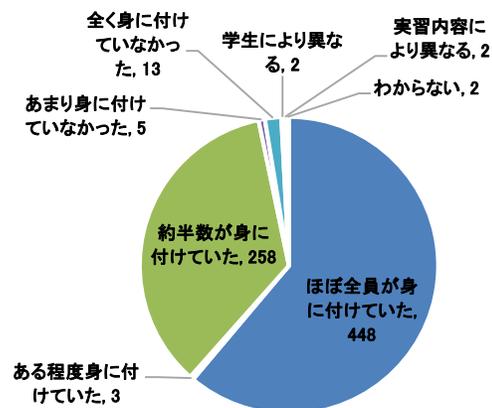
早期からの継続した患者指導が可能なレベルまで
実習生を教育して医療現場に送る出す。**(大学)**
実践的な臨床能力がどこまで修得できているかを評価し、
継続して能力を高めていく。**(実習施設)**



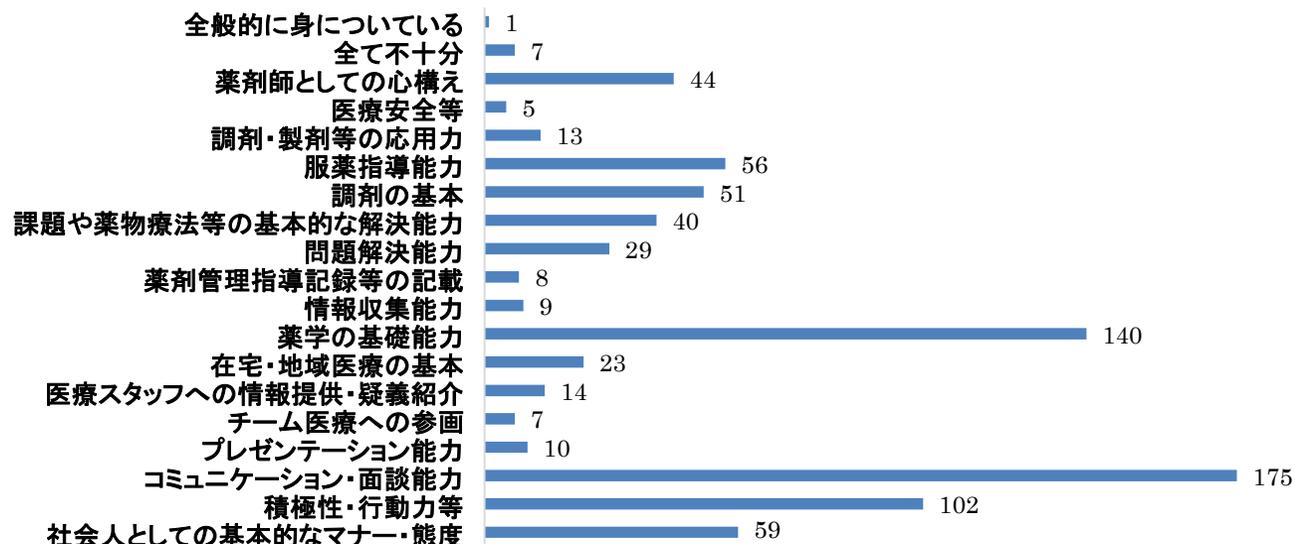
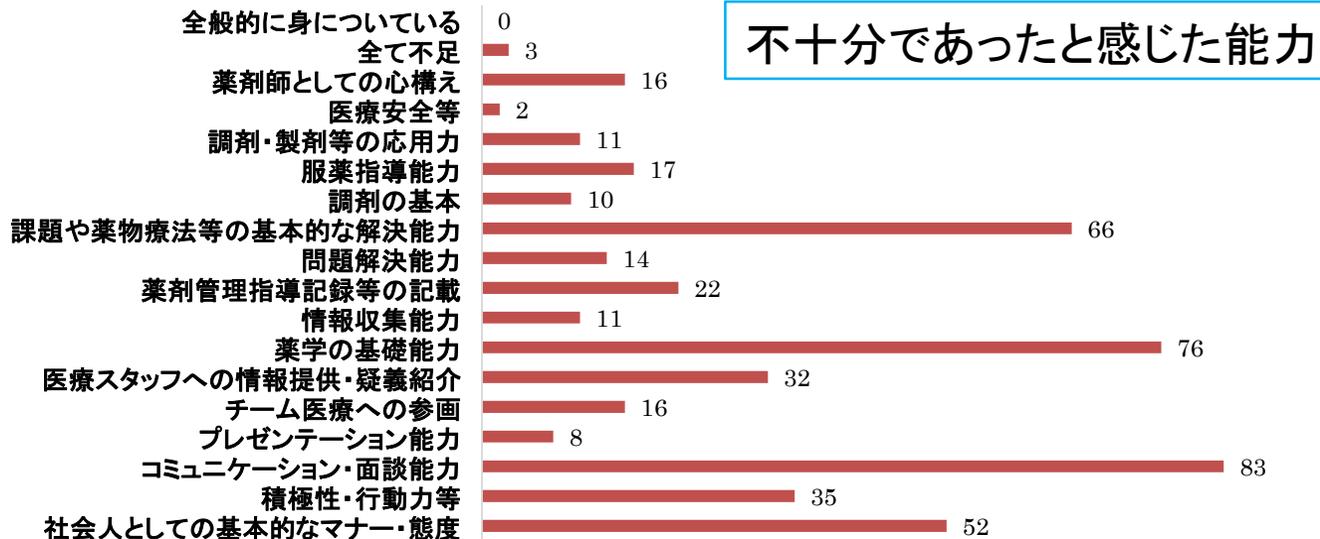
共用試験

実習生は参加・体験型の実習に対応できる能力を身に付けていましたか？

病院(820施設)



薬局(2514施設)



Shows how から Doesへ

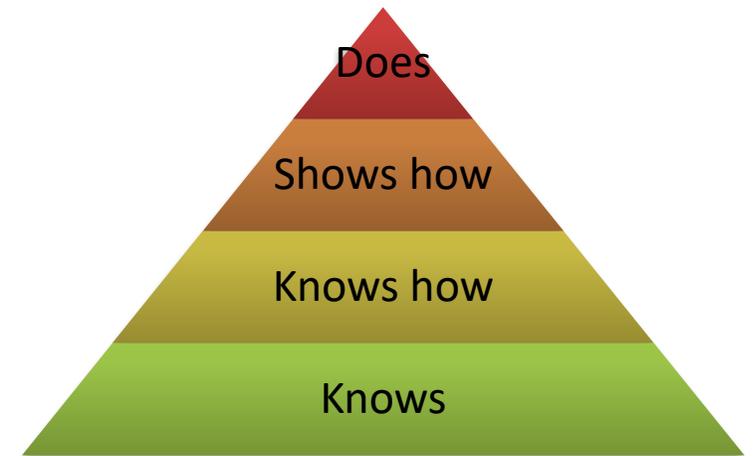
大学で学んだ知識・技能・態度

実務実習

臨床現場で**実践しながら**、修得した知識等をどのように活かして臨床の課題に対処するかを「学ぶ」場：「**課題解決能力**」を磨く！

実務実習の評価

臨床現場で実際の医薬品や患者・来局者にどのように対応したかを観察し、記録し、振り返ることで実践的な臨床能力がどこまで身についたかを、指導薬剤師のサポートのもと、定期的に評価して成長を確認する。その評価をもとに、実習生の実習方略も常に見直していく。



Miller の学習ピラミッド

実務実習の「評価」・大学の「評価」

卒業認定・学位認定の方針
〈ディプロマ・ポリシー〉

大学教育の充実に向けたPDCAサイクルと
薬学臨床

教育課程編成・実施の方針
〈カリキュラム・ポリシー〉

入学者受入れの方針
〈アドミッション・ポリシー〉

各大学の「3つのポリシー」に記載される
各大学オリジナルの
「薬剤師としての実践的臨床能力」の養成方針

実習生が 確実に自学の卒業時の目標に到達したかを評価するためには、**実務実習での「評価」が各大学での「評価」にどのようにつながるのか**をきちんと明示し、そのための指針を実習施設にも提示する必要がある。

薬剤師業務の評価から 薬剤師が修得すべき能力の評価へ

大学⇒実務実習⇒大学 と連続で評価すること
ことで6年間の成長が確認できる。

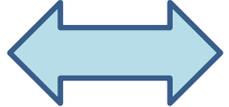
<実務実習の評価の改善>

- 薬剤師としての資質・能力を連続して評価する
評価方法の確立
- 大学教員・施設指導薬剤師の評価の観点の摺合せと
情報共有の推進

実務実習と薬学共用試験

<医療現場での実習可否を決定する試験>

- 実施時期の課題

4期制の実務実習 2月開始  共用試験最終決定 3月

- 試験課題

CBT: コンピュータ対応の知識試験

ニーズの変化に合わせた知識問題の改訂は対応可能

OSCE: 調剤・服薬指導の実技シミュレーション試験

「調剤」は モノからヒトへ大きく変化している。

薬剤師業務ニーズの変化に対応した課題の見直しは必要。

医療人としてのコミュニケーション能力育成教育の充実は必須。

- 実務実習での成長、卒業時の臨床実践能力の測定

卒業時に目標とする実践的能力が修得できたか確認は必要では...

領域	課題
患者・来局者対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬局での患者対応 ・ 病棟での初回面談 ・ 来局者対応 ・ 在宅での薬学的管理
薬剤の調製	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計量調剤（散剤） ・ 計量調剤（水剤） ・ 計量調剤（軟膏剤） ・ 計数調剤
調剤監査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調剤薬監査 ・ 持参薬チェック
無菌操作の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗いと手袋の着脱 ・ 手指の消毒と手袋・ガウンの着脱 ・ 注射剤混合
情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬局での薬剤交付 ・ 病棟での服薬指導 ・ 一般用医薬品の情報提供 ・ 疑義照会 ・ 医療従事者への情報提供

薬剤師として求められる基本的な資質

(薬剤師としての心構え)

医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理観を有する。

(患者・生活者本位の視点)

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

(コミュニケーション能力)

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

(チーム医療への参画)

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

(基礎的な科学力)

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

(薬物療法における実践的能力)

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

(地域の保健・医療における実践的能力)

地域の保健、医療、福祉、介護および行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

(研究能力)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

(自己研鑽)

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

(教育能力)

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

**「薬剤師に求められる基本的な資質」は
薬剤師生涯研鑽の目標でもある。**

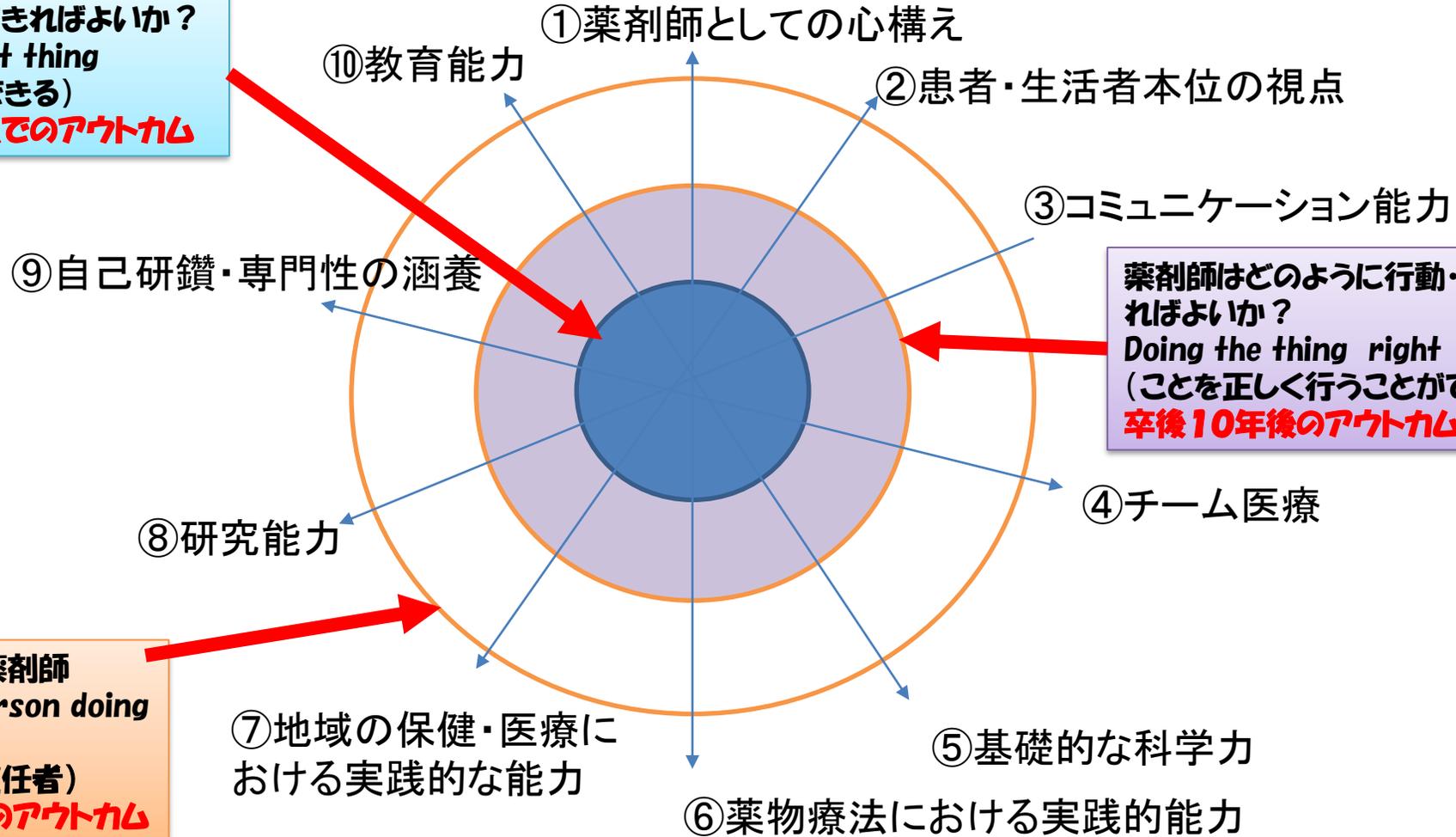
**実務実習で実習生が目指すのは
医療現場で即戦力で働ける能力ではない！**

**医療の担い手としての高い意識と将来、薬剤師として活躍できる
基礎的な資質の修得が目標。**

**薬剤師としての成長と、医学・薬学の進歩に合わせ、
この資質の到達点はどんどん高くなる！**

**将来社会で活躍する「薬剤師」の目標とその成長を評価するシステムが必要。
実務実習はその第一歩となる重要な機会。**

薬剤師は何ができればよいか？
Doing the right thing
(正しいことができる)
6年生卒業時点でのアウトカム



薬剤師はどのように行動・実践すればよいか？
Doing the thing right
(ことを正しく行うことができる)
卒後10年後のアウトカム

プロとしての薬剤師
The right person doing it
(それを行う適任者)
卒後20年後のアウトカム

Harden: the three circle model

より充実した薬学実務実習に向けて

<10年後・20年後に活躍する薬剤師の育成>

- 標準的な実習を担保した上での実習期間・実習内容の再検討
変化する医療への対応、能力や希望に応じた実習の実現
画一的な実習から地域や実習生に合わせた実習へ
- 実習生の臨床実践能力(課題解決能力)の目標とその評価の整備
- 大学の積極的関与と時代のニーズに合った臨床準備教育の充実
- 実習施設の充実と指導薬剤師の質の担保

実習生にとって実習施設が最初の臨床体験

指導薬剤師は初めて身近に感じるロールモデル

実務実習は医療施設の業務の再評価を行う機会でもある。

 実務実習の充実が薬剤師の活躍につながる！

薬局・病院と薬学部の新しい連携

